



平成30年度

# 学校関係者評価報告書

学校法人諏訪学園  
山形医療技術専門学校

学校法人諏訪学園山形医療技術専門学校は、平成 30 年度自己評価に基づいて学校関係者評価を実施しましたので、その結果を以下のとおり公表いたします。

## 1 学校関係者評価について

専修学校における学校評価は、平成 19 年の学校教育法及び同施行規則の改正により、学校関係者評価の実施・結果の公表に関する努力義務が課されています。また、職業実践専門課程に認定されている課程においては、学校関係者評価を必ず実施することとなっています。本校では、「専修学校における学校評価ガイドライン」(文科省：平成 25 年 3 月)に基づき、**学校評価・学校関係者評価実施規程**を定め学校関係者評価を行なっています。

## 2 学校関係者評価の目的

関連業界、職能団体等関係者、卒業生、教育に知見を有する者などの学校関係者が、山形医療技術専門学校の学校評価結果を評価することで学校評価の客観性、透明性を高めるとともに、学校関係者から学校運営、教育活動の現状における課題について意見、要望を受け継続的な改善をはかること並びに特色ある学校づくりを目的としています。

## 3 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価をおこなうにあたり、本校の「自己評価報告書」を基に「専修学校における学校評価ガイドライン」(文科省：平成 25 年 3 月)に則り実施することを基本方針とします。

## 4 学校関係者評価委員会委員

区分	氏名	役職/所属等	外部委員選任根拠	外部委員任期
委員長	梶原賢	校長	-	-
委員	杉原敏道	教育部長	-	-
委員	磯部佳宏	総務部長	-	-
委員	武田貴好	教務課長	-	-
委員	長沼誠	理学療法学科長	-	-
委員	鈴木竜平	作業療法学科長	-	-
外部委員	菊地和博	東北文教大学短期大学部 特任教授	教育に知見を有する者	平成 29 年 11 月 22 日～ 令和元年 11 月 21 日(2年)
外部委員	飯塚力	サンワ機器 代表取締役	地域住民 会社経営者	平成 29 年 11 月 22 日～ 令和元年 11 月 21 日(2年)
外部委員	早坂奈緒子	篠田総合病院 理学療法士	関係業界 卒業生	平成 29 年 11 月 22 日～ 令和元年 11 月 21 日(2年)
外部委員	沼沢和宏	至誠堂総合病院 作業療法士	関係業界 卒業生	平成 29 年 11 月 22 日～ 令和元年 11 月 21 日(2年)

## 5 学校関係者評価委員会実施日時

実施日時 令和元年5月24日(金)15:00~16:30

場 所 山形医療技術専門学校 会議室

## 6 学校関係者評価方法

「平成30年度自己評価報告書」に基づき、基準項目の結果と今後の改善方策について以下のポイントに留意しながら評価をおこないました。

- (1) 自己評価結果の内容が適切かどうか
- (2) 今後の改善方策は適切かどうか
- (3) 学校の運営改善に向けた取組が適切かどうか
- (4) その他、学校運営に関する意見、要望等

## 7 学校関係者評価結果

評価については、◎適切である、○ほぼ適切である、△やや不適切である、×不適切である再検討が必要、の4段階の評価をおこなっている。

基準並びに項目に対する学校関係者の評価は、以下のとおりです。

基準並びに項目	評価(1)	評価(2)	評価(3)
基準1 教育理念・目的・人材育成像	◎	◎	◎
基準2 学校運営	◎	◎	◎
基準3 教育活動	◎	◎	◎
基準4 学修成果	◎	○	○
基準5 学生支援	◎	○	○
基準6 教育環境	◎	◎	◎
基準7 学生の受入れ募集	◎	◎	◎
基準8 財務	◎	◎	◎
基準9 法令等の遵守	◎	◎	◎
基準10 社会貢献・地域貢献	◎	◎	◎

関係者評価委員会からの意見要望(委員会質疑応答)

### 教育活動・学修成果

国家試験の結果を含めた学修成果について伺いたい。

第54回国家試験の合格率は、理学療法学科100%、作業療法学科94.4%であった。いずれも全国平均を大きく上回る結果であり特に理学療法学科は7年連続100%であった。今年度は、両学科とも100%となるよう取り組んでいる。

作業療法学科の合格率100%を達成するために具体的に取り組んでいることについて伺いたい。

作業療法学科については、国家試験対策にかなり力を入れて時間もかけてやってきたが100%を達成できなかったことから様々な角度から見直しを行なっている。基礎科目の学習理解を深めることや、授業の実施方法などの改善を図っている。また、国家試験の問題傾向についての分析を行い、より早期からの対策に力を入れたい。

留年や退学者は前年に比べて低減が図られているようだが具体的な対策を行ったのであれば伺いたい。

とくに1・2年次での留年、退学者が減ってきている。成績不振や学習意欲の低下が留年や退学につながっていることから、個別指導や保護者との連携を図り、早期からの対策を実施している。また、実習中に問題があればすぐに訪問し、解決を図るようにしている。しかしながら実習不合格となり、留年や退学となってしまう学生がいる。効率的に課題を行えるように臨床的思考過程の整理を強化したり、受け身になってしまう学生のために学内学習の場から積極的に発言できるような環境を整えていきたい。

最近の新入職員は積極性に欠けていて、指示待ちになってしまうという傾向がある。卒後教育についての考え方を伺いたい。

本校では自分から発言できるように、学内学習でもグループワークを多く取り入れている。また卒業生に対しては学会での発表や論文作成の支援を行い、研修会への参加も促している。

### 学生支援

就職率は100%を維持できているが、就職支援について今後どのように行っていくか伺いたい。

各科ともに1800程の求人をいただいている。その中で臨床実習に協力いただいている施設を中

心に7月に就職ガイダンスを実施している。しかし近年、就職試験の時期が早まっていることから、ガイダンスの時期も早めることを検討している。

学生のクラブ活動等、課外活動への支援はされているのか。

クラブ活動については、行われていない。現在建設中のグラウンド、体育館が完成し、学生からの要望があれば支援していきたいと考えている。

ボランティアなどの活動については、施設の夏祭りなど毎年多くの依頼を受けているため、連絡調整を行い、多くの学生が参加できるようにしている。

## 学生募集

学生募集に関しては、様々な学校で苦慮している部分ではあるが、新たに始めたことやそれが成果となっているか伺いたい。

今年度入学した学生へのアンケートでは、オープンキャンパスへの参加で受験を決めたという回答が約半数あった。実際に本校の雰囲気を見てもらい、理学療法、作業療法への理解を深められる体験にしているが、これが一定の成果を挙げていると考えられる。

また、今年度ホームページを刷新し、スマートフォンにも対応する。SNS等も利用した情報発信を行っていきたい。

東北内でも養成校がさらに新設されるが、本校の特色をアピールし、より多くの志願者を獲得したい。

## 法令順守

養成校の指定規則が改正されるが、カリキュラムの整備など準備は整っているのか伺いたい。

新カリキュラムは、検討中であるが要となる部分は決まってきた。国家試験に合格しうる学力と臨床で求められる人物の育成ができるカリキュラムとなるように編成したい。

臨床実習指導者の要件が大きく変わる。5年以上の経験年数と講習会の受講が必須となる。県士会でも今後講習会を予定しており、各施設に参加を促している。

臨床の場では情報を集めたり、少ない情報から判断したりする能力が必要になる。こうした訓練をする科目は何か考えられているか。

病気、病態の知識を増やすように科目を増設している。また、問診等を行うようにシラバスを作成し、伝え方、コミュニケーションのトレーニングもしていきたい。